

## 指導者を“先生”と呼ばせることについて

堺ラグビースクールでは、発足当初から生徒達に指導者（指導員）を“先生”と呼ばせてきました。昨今、他のラグビースクールでは指導者を“コーチ”と呼んでいる所もあり、当スクールでも“コーチ”と呼ばれるケースも聞き及びます。

そこで、この機会をお借りして堺ラグビースクールの考えを皆様にお伝えしたいと考えます。今ここに発足当初からの指導者の方も何名か居られて、これから私の話す内容が違っていましたらご指摘をいただきたいのですが、私も発足時から参加していますので、私の理解しているところをお話します。

堺ラグビースクールと言う名称から「指導員は先生ですよ」との認識で参加しました。

中西校長からも「指導員は、先生の自覚を持って指導してください」と言われていました。

その当時は、“コーチ”と云うのは“技術を教える人”で先生とは違う。

「我々は、子供達にあいさつやしつけを教えるんやから先生なんや」と。

だから、“コーチ”と呼ばれた時には、「コーチではありません。先生と呼んでください」と訂正していました。

この考えは、今も変わりません。

先生と呼んでもらうために、我々指導者は“先生らしく”あらねばなりません。

このような理解でよろしかったでしょうか？（杉江参与に尋ねる）

以上のような考えで、堺ラグビースクールの指導者は“先生”と呼ばれる自覚を持って、生徒達と保護者の方々に接していただきたいと思います。

もし“コーチ”と呼ばれたら、創設時のように「コーチではなく、先生と呼んでください」と訂正していただけますか。

現代では、“コーチ”の意味合いに人間性の教育指導を含める人もいますが、辞書で調べるとコーチと先生の定義は明らかに違います。

「コーチとは、運動競技の技術などについて指導・助言すること。また、その人。」

生徒は幼児から中学生までです。 我々は、技術よりも人間性の指導を重視しています。

「ラグビーを通して、健全な精神と肉体を鍛える」

この目的のために、堺ラグビースクールの指導者をやっていきましょう。